

環の公共事業構想ガイドライン評価シート

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成 21年 8月 11日		
		作成部署	京都林務事務所		
事業名	丹波広域基幹林道建設事業	地区名			
概算事業費	139.1億円	事業期間	昭和59年度～平成25年度		
事業概要	林道開設 延長L=65,426m 幅員W=4.5m～5.0m				
目指すべき環境像	地球温暖化緩和のため、環境に優しい資材の安定供給と森林の持つ環境保全機能の持続的な発揮				
関連する公共事業	森林管理道開設事業、作業道開設事業、治山事業の森林整備事業				
評価項目			施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
主要な評価の視点		選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	○	京都府レッドデータブックに掲載の猛禽類「絶滅が危惧される野生生物(クマタカ等)」の生息地が林道沿線で確認されたため、自然環境の保全と林道建設の調和を図る必要がある。	自然環境への影響を抑えるため地形の改変面積を少なくし、幅員を縮小する。モニタリング調査を実施し、猛禽類の生殖行動に応じた工期設定を行い、繁殖期は工事を実施しない。自然植生の導入による法面工法の採用。	4
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)				
	野生生物・絶滅危惧種	○			4
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		当該地域は由良川、桂川の流域に位置し、地質は古層の粘板岩であり、地形は急峻な山岳部を源流に有る。水質の悪化が懸念される。十分な配慮が必要である。	掘削法面は早期に緑化させるため土砂部は植生部材で吹き付け、岩盤部は防ススや石の崩落防止を。排水を一箇所に集中させず分散し、排水による土砂浸食を防止する。林道開設により森林整備が促進され、公益的機能が高度に発揮される。工事支障木再利用の推進。	3
	水環境・水循環	○			
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動				
	廃棄物・リサイクル	○			4
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	○	施工地は日本海と太平洋の分水嶺となる尾根伝いに走る林道であり、歴史的に有名な峠もある。また、貴重なツツクガ群や伏条台榭が多く存在するため、環境に配慮する必要がある。	貴重な峠や植物を残すために、ルートの一部変更し、環境に配慮する。地元所有者等との協働により自然植生を保護する。環境学習の場として提供する。	4
	里山の保全	○			3
	地域の文化資産	○			3
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			4
	その他				
外部評価					